

URGCC 推進を目的とした 共通教育等科目用シラバスの記載の確認事項

本学では、平成 24 年度の URGCC (琉大グローバルシティズン・カリキュラム) の設置に伴い、共通教育等科目のシラバスの達成目標欄に URGCC 学習教育目標との対応関係を明記することになりました。

ついては、今一度、シラバスの「作成方法」及び「記載」について確認くださるようお願い申し上げます。

URGCC の着実な実施のため、御理解の上、御協力くださるようお願い申し上げます。

1 シラバス記載例 (達成目標欄)

■達成目標	
1.ができる。[自律性]	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「7つの URGCC 学習教育目標 (表 1)」の中から、各達成目標に対応する目標を選んで明記する。その際、原則として含める目標 (表 2) を参照すること。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">URGCC 学習教育目標に該当しない達成目標があってもよい。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">複数のキーワードを並べて書いてもよい。</div>
2.ができる。	
3.ができる。[社会性] [コミュニケーション・スキル]	
4.ができる。[問題解決力]	
※[]内は本授業が対応する URGCC 学習教育目標	

表 1 7つの URGCC 学習教育目標

学習教育目標のキーワード	内 容
自律性	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。
社会性	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付け、多様な人々と協調・協働して行動できる。
地域・国際性	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。
コミュニケーション・スキル	言語とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。
情報リテラシー	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。
問題解決力	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。
専門性	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができる。

※詳細については「別紙 URGCC における学習教育目標 (3 ページ)」をご参照ください。

表2 達成目標として含める URGCC 学習教育目標について（科目系列別）

科目系列	原則として含める目標	含めることを推奨する目標	含めることができる目標
人文系科目	社会性	自律性、問題解決力	左記以外の目標
社会系科目	社会性	自律性、問題解決力	〃
自然系科目	問題解決力	自律性	〃
健康運動系科目	社会性	自律性	〃
総合科目	問題解決力	自律性、社会性	〃
キャリア関係科目	自律性	社会性、問題解決力	〃
琉大特色・地域創生科目	地域・国際性	自律性、問題解決力	〃
情報関係科目	情報リテラシー 問題解決力	自律性 コミュニケーション・スキル	〃
外国語科目	地域・国際性 コミュニケーション・スキル	自律性 情報リテラシー	〃
先修科目	問題解決力	自律性、専門性	〃
転換科目	問題解決力	自律性、専門性	〃
日本語・日本事情	地域・国際性 コミュニケーション・スキル	自律性	〃

※「原則として含める目標」欄に記載のある URGCC 学習教育目標は、原則として各科目系列の達成目標に含めてください。また、URGCC 学習教育目標を正確に学生に伝えるためにチェックボックスにチェックを入れてください。

2 誤記載についての注意

下の表3に掲げた誤記載に注意してください。また、すでにシラバスを登録済で下記の誤記載に該当する場合、修正を行ってください。

表3 よくある誤記載の例

誤	正
自立性	自律性
問題解決能力	問題解決力
地域国際性	地域・国際性
コミュニケーションスキル	コミュニケーション・スキル
URGCC 学習教育目標を囲む括弧の表記 ()・「 」・【 】・{ }	[]
URGCC 学習教育目標を文章として書いている (例)「…この科目は、URGCC 学習教育目標の自律性、コミュニケーション・スキル、問題解決力の達成を目指します。」	達成目標と URGCC 学習教育目標は、 <u>一対一又は一対多の対応の形で記載すること</u> 1. ……できる。[自律性] 2. ……できる。[コミュニケーション・スキル] 3. ……できる。[自律性] [問題解決力]

本件問い合わせ先：グローバル教育支援機構 開発室（URGCC 担当）
Tel:098-895-8742/E-mail:dgurgcc@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

別紙 URGCC における学習教育目標

本学は、「自由平等、寛容平和」という建学の精神を継承・発展させて、「真理の探究」、「地域・国際社会への貢献」、「平和・共生の追求」を基本理念としている。

この基本理念の下、本学は養成する人材像として、「普遍的価値を身につけた 21 世紀型市民として、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材」を掲げ、更に具体的に以下の 4 つを養成する人材としている。

- 1 豊かな教養と自己実現力を有し、総合的な判断力を備えた人材
- 2 優れた専門性を持ち、地域社会及び国際社会に貢献する人材
- 3 外国語運用能力と国際感覚を有し、国際社会で活躍する人材
- 4 地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献する人材

本学は、学士課程教育における人材養成の目的を達成するため、琉大グローバルシティズン・カリキュラム(University of the Ryukyus Global Citizen Curriculum：学士課程教育の総称)における学習教育目標を以下のとおり定める。

○ [自律性] 自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。

学問、社会、職業、生活上の望みをかなえるという意欲を持ち、この目標を達成するための方策を立てて実行することができるよう、自律的に学習し行動する力を身に付けることが求められる。

例えば、次のようなことがあげられる。

- 「大学で学ぶ意義を理解することができる」
- 「目標達成のために、自律的に努力することができる」
- 「生涯を通して学び続けようという姿勢を持つことができる」
- 「心身の健康を自律的に維持するように努めることができる」

○ [社会性] 市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付け、多様な人々と協調・協働して行動できる。

他者との交流なしには生活の維持、更にはよく生きることも困難である。集団内の人々が協力して働かなければ、職業上の成功等達成できないことが多く、そのためには自分自身が主体的に活動し意見を述べるとともに、他者の意見に耳を傾け他者を支援することが求められる。

例えば、次のようなことがあげられる。

- 「社会の規範やルールの意味を理解し、自己の良心に従って行動することができる」
- 「他者の意見を傾聴することができる」
- 「他者と協調・協働(チームワーク)して行動することができる」
- 「リーダーシップを有し、目標の実現のために行動することができる」
- 「社会の一員としての自覚を持つことができる」

○ [地域・国際性] 地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。

沖縄の自然・歴史・社会等を理解することを通じて、自由・平等・平和・共生を追及し、地域・国際社会の発展に積極的に関与できることが求められる。

例えば、次のようなことがあげられる。

- 「自分が生活している地域社会の問題を理解することができる」
- 「沖縄の自然・歴史・社会等と世界の状況を結び付けて理解することができる」
- 「異文化を理解し、寛容な姿勢を持つことができる」
- 「自然環境を理解し、自然と共生するための知識を身に付けることができる」
- 「自らがよって立つ地域を理解し、説明することができ、また異なる歴史的・文化的特性や価値観を持つ人々と共生し、地域・国際社会の活性化及び持続的発展に積極的に関与することができる」
- 「地域で起きている様々な問題を、国際的な視点に立って分析し考察することができる」
- 「国際的な問題を理解することにより、地域の問題も理解することができる」

○ **【コミュニケーション・スキル】 言語とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。**

他者との交流を図るために、言語（手話その他の形態の非音声言語等を含む）と図表等のシンボルを使いこなし、自分の考えや意思を明確に表現する基礎的な力が求められる。

例えば、次のようなことがあげられる。

- 「高度な日本語力を持ち、活用することができる」
- 「特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる」
- 「手話その他の形態の非音声言語等を用いて、自分の考えや意思を伝えることができる」
- 「語彙、論理ともに適切な文章で論文を作成することができる」
- 「自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析・理解し、表現することができる」
- 「様々な立場を理解し、論理的に意見を交わすことができる」
- 「他者との意思の交換により、社会の中で他者と良い関係を築き、共生することができる」

○ **【情報リテラシー】 幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。**

自分の専門分野は元より幅広い分野の情報や知識を、様々な情報源から収集する力が求められる。更に、収集した情報や知識の適切性を判断して理解し、分析するだけでなく、情報を批判的に検討し、取捨選択した上で活用することが求められる。

例えば、次のようなことがあげられる。

- 「それぞれの分野において、信頼できる情報源を判断することができる」
- 「多様な情報を収集・分析して、論理的で偏りがなく、多面的・客観的に判断することができる」
- 「自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えることを意識し、共有できる形に再構成することができる」
- 「収集した情報をモラルに則って活用することができる」
- 「自らが取り扱う情報に対する責任について考え、情報社会で適正に判断することや行動することができる」

「情報セキュリティに対する適切な知識を持ち、情報通信技術を活用することができる」

○〔問題解決力〕批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。

他者に通じるような論理や、複数の異なる視座からの思考によって、これまでに獲得した知識や経験等を活用し、総合的に判断することが求められる。

例えば、次のようなことがあげられる。

「様々な視座から物事を批判的に考察することができる」

「問題を見だし、創造的に解決策を考えることができる」

「情報や知識を論理的に分析することができる」

「獲得した知識や経験等を活用し、課題について総合的に判断することができる」

「幅広い学問分野について関心を持ち、その分野から得られる知見を活用することができる」

○〔専門性〕専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができる。